

近畿中央呼吸器センターに入院中の患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、カルテに記載された情報を収集してまとめることによって行いますが、患者さんの個人情報については配慮しながら行います。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 指定難病における進行性線維化を伴う間質性肺疾患に関する研究

[研究の目的]

間質性肺疾患は様々な原因により肺の間質と呼ばれる部分に障害が起きる疾患の総称です。間質性肺疾患は 200 以上の疾患に分類されていますが、同じ病名の中でも進行が早い人もいれば遅い人も存在し、その経過は様々です。

近年、「進行性線維化を伴う間質性肺疾患：PF-ILDs(Progressive Fibrosing Interstitial Lung Diseases)」という概念が世界中で注目されています。間質性肺疾患の中には“診断名が何であろう”と、ゆっくりと病気が進行していく一群がいる事が指摘されており、自覚症状や呼吸機能検査、C T 検査の程度から一括りにしたものが PF-ILDs です。昨年末、PF-ILDs に対して抗線維化薬と呼ばれる薬の一種であるニンテダニブが病気の進行を遅らせる事が国際試験にて証明されました。これまではニンテダニブは難病である特発性肺線維症と診断された患者さん以外には使用する事が出来ませんでした。今後は他の難病と言われる間質性肺疾患にも使用する事ができる可能性があります。しかし、この PF-ILDs の概念や定義に関しては、まだ決まったものがなく、これらは今後の研究によって解明されなくてはなりません。今回、我々は外科的肺生検が行われた間質性肺炎の患者さんの中にどの程度 PF-ILDs の方がいるか？や、その予後を調べます。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2004 年 1 月から 2016 年 12 月の期間に外科的肺生検が行なわれ院内カンファレンスで診断されている間質性肺疾患の患者さん。

●利用するカルテ情報

主治医の先生の記載記録と年齢、性別、病気の種類、画像検査、呼吸機能検査などの情報を利用させていただきます。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解頂けない場合は、以下にご連絡ください。なお、その場合においても患者さんが診療上不利益をこうむることは一切ありません。なお、研究終了後のご連絡には申し訳ありませんが対応できません。

[問い合わせ先]

大阪府堺市北区長曾根町1180番地

国立病院機構近畿中央呼吸器センター 内科・専修医 中村行宏

電話 072-252-3021 FAX 072-251-1372